

「渚にて」の一場面よう。核戦争はともかく、人類の未来に関わることについて話していたことには違いない。

「信州の大学に天文講座を」——これは単に天文学の宣伝のためではなく、技術立国を目指す上での一つの具体的な提案である。天文と理科教育に関わる問題が、このところ天文月報で議論が続き、研究者の問題意識が明解になってきたようだ。それでは現場の先生方はどう考えておられるのだろう。月報もこの本もともに、学校の先生方に目を通してもらい、理科教育や天文教材についてフィードバックをかけてほしいものだ。

最後に、1966年の記事から。「わが国にただ一つしかない総合的天文台で、天文学用に是非必要なものが作れないとしたら、どこに作ればよいのでしょうか。」それが作れるように天文台を変えなければならない、自分たちの手で。同じことは全ての研究機関、会社、さらには家

庭についても言えよう。ある大きな目標を達成するために現在の環境が不適當ならば諦めるのではなく実現に向けて努力すべきなのだ。もう一つ、天文学者として、天文学に専念できる立場にいるとき、そこで天文学の重要な課題に取り組まないとしたら他の誰がやるというのか、反省を促される思いでした。

(林 左絵子)

☆ ☆ ☆

◇ 6月の天文暦 ◇

日	時	分	記	事
1	9	44	水星	留
5	8	44	月	最近
5	20	15	芒種	(太陽黄経 75°)
7	15	22	下弦	
13	9	0	金星	内合
13	12	55	水星	内合
14	18	14	朔	
20	13	11	天王星	衝
20	17	11	月	最遠
20	18	13	土星	衝
21	12	57	夏至	(太陽黄経 90°)
22	19	23	上弦	
25	8	36	水星	留
30	4	46	望	
30	18	46	海王星	衝

1988年3月の太陽黒点 (g, f) (東京天文台)

1	—	—	11	1,	19	21	—	—	
2	—	—	12	4,	14	22	—	—	
3	6,	39	13	4,	34	23	5,	60	
4	6,	49	14	4,	44	24	4,	38	
5	4,	47	15	—	—	25	—	—	
6	3,	62	16	5,	51	26	—	—	
7	4,	42	17	—	—	27	5,	64	
8	4,	49	18	5,	79	28	9,	110	
9	4,	30	19	6,	109	29	—	—	
10	4,	24	20	—	—	30	—	—	
							31	—	—

(相対数月平均値: 57.9)

